

合同防災キャンプ 2016 実施内容

—都立高校防災サミット及び合同防災キャンプ報告会—



東京都立新宿山吹高等学校	平成 29 年 1 月 22 日 (日)
9:00	受付開始・開場
9:30	開会式—東京都教育委員会 挨拶
9:40	第 I 部 活動報告 都立南多摩中等教育学校 都立山崎高等学校 都立新宿山吹高等学校 ※各校発表への質疑応答、2 名ずつ
10:40	防災士認証状授与式
10:50	特定非営利活動法人 日本防災士機構理事 挨拶
	休憩・教員移動
11:10	第 II 部 グループ協議 「防災・減災を考える」 【生徒】「災害発生後 72 時間をどう生き延びるか」 グループ同士で協議内容を報告 【教員】「各高校の防災教育の取組について」
12:05	休憩・教員移動
12:15	代表生徒によるグループ協議内容発表 (2 班)
12:25	閉会—東京都教育委員会 挨拶
	防災士認証状及び防災士証 (バッジ) 交付、記念撮影

第 I 部



第 I 部では、山崎高等学校と新宿山吹高等学校が、「合同防災キャンプで学んだこと」について発表しました。

山崎高等学校の生徒は“東日本大震災被災地の現状と私たちができること”と題し、「現地での高校生との交流を通じ、私たちも彼らのように自ら判断し、行動できるようにしたい。また、このキャンプで親切にしてくれた被災地の方々へ、東京の高校生ができることを考え、継続して東北への支援をしていきたい。」等の、意欲を表明しました。

新宿山吹高等学校の生徒は、「門脇小学校から日和山への避難を追体験し、早め早めの行動の大切さがよく分かった。走っている最中は文字を読む余裕がないため、避難場所を示す看板はイラスト等、単純なものがいいと思う。」等、実体験にもとづく防災意識の高まりを伝えました。

どちらの学校も小野花匠園、金比羅丸、たみこの海パックの方々との出会いから、「震災後、地域の人たちと“共助の精神”で生きていく力を養っていること、仕事を継続・発展させて復興につなげていこうという姿勢を持ち活動している。」という共通点を見いだしていました。

あわせて当日は、防災士認証状の授与式が行われました。参加者102名全員が合格し、一人ずつ名前も読み上げられました。特定非営利活動法人 日本防災士機構 理事 浦野 修氏より、代表生徒として、足立工業高等学校 谷内田 周平さんに認証状が手渡されました。

第 II 部

第 II 部は「災害発生後 72 時間をどう生き延びるか」を題材に、6 人ずつ 31 班に分かれてグループ協議をしました（合同防災キャンプ参加者を各班に 2 名ずつ配置。防災士として協議の進行を行った。）。

このうちの 2 班が、協議内容を発表。「高校生でもできること」にフォーカスし、「幼い子の面倒を見る。」「学校が避難所になった場合の炊き出しの手伝いをする。」、あるいは「災害時には電子マネー等も使用できなくなるといった、日頃当たり前に考えていることが当たり前ではなくなることを知っておくことが大事」といった考えを述べました。また、熊本の震災時に消防士の方が話していた、“軽症者を救護していったところ生存率が上がった”というエピソードを引き合いに、“高校生は（重症者は消防士等に任せて）軽症者を救護する方が良いのではないか”といったアイデアも出され、新たな防災知識・情報の習得にも取り組んでいる成果を示す発表となりました。

なお、生徒のグループ協議の間、教員は「各高校の防災教育の取組について」、32班に分かれて活発な情報交換を行いました。

